

那珂川町図書館

オススメの1冊

『いっさいはん』 minchi/作 岩崎書店 実用書【E8 599 ミン】

子どもの成長は早い。素晴らしい。そしておもしろい！

1歳を過ぎ、歩き出すと、行動範囲が広がってますます目が離せなくなります。大人の想像をはるかに超える行動の数々に、怒ったり、驚いたり、呆れたり、感心したり。世のお母さん、お父さん、毎日本当にお疲れ様です。けれど子どもと過ごす日々は、愉快で幸せな時間でもありますよね。

この本は、一歳半頃の子どもの様子を、たくさんのイラストで紹介した絵本です。作者の実体験をもとに描かれたイラストの数々は愛らしく、我が子への愛情で溢れています。

お膝の上に抱っこしている状態から、突然立ち上がる（抱っこしているお母さんは、当然アゴに頭突きされることに・・・）。口の中にご飯をいっぱい詰めてくしゃみをする（なぜでしょう、このタイミングの良さ！）。洗濯物を干すと、ふやけたご飯粒が出てくる（スタイでかばいきれない範囲にも、ご飯粒が飛び散っているんですよね）。おもちゃ箱から腐ったみかんが出てくる（子どもにとっては食べ物でもおもちゃでも、大切なものはみな同じなのでしょう）。

その他、片付いたものは次々と散らかしていく、シャンプーの後は髪形がオールバックになる、寝起きの後頭部が鳥の巣のようになる、などなど・・・次から次へと登場する一歳半の「あるある」に、何度読んでも大笑いです。一方で「うちの子だけじゃなかった」と驚いたり、安心したりする自分もいます。大変なことだらけの毎日ですが、そんな子育ての苦労も笑い飛ばしてしまえる一冊です。

以前、司書仲間から「こんな本があるよ」と紹介されたのがきっかけで、この本と出会いました。彼女はしばらく会わない間に3姉妹の母親になっていました。元々の柔らかな雰囲気におおらかさが加わって、貫禄たっぷり、お母さんのオーラが漂っていました。私もいつか、彼女のように立派な母親になれるといいのですが・・・。

那珂川町図書館（ひ）